

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
592	独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名（原題／訳）</b>	
Ethyl Glucuronide in Hair Compared With Traditional Alcohol Biomarkers—A Pilot Study of Heavy Drinkers Referred to an Alcohol Detoxification Unit 従来のアルコールバイオマーカーと比較した毛髪中のエチルグルクロニド-アルコール解毒部門に紹介された大量飲酒者の試験的研究	
<b>執筆者</b>	
Gudrun Høiseith, Luca Morini, Aldo Polettoni, Asbjørg Christophersen, Jørg Mørland	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
Alcoholism: Clinical and Experimental Research Volume 33 Issue 5, Pages 812 – 816 (2009)	
<b>キーワード</b>	
アルコールバイオマーカー、エチルグルクロニド、大量飲酒者	
<b>要 旨</b>	
<p>大量飲酒の従来のバイオマーカーには、ガンマグルタミルトランスフェラーゼ（GGT）と血清糖鎖欠損トランスフェリン（CDT）、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）がある。非酸化的エタノール代謝産物であるエチルグルクロニド（EtG）の毛髪中の含量の測定が行われ、新たな優れたマーカーであることが提案された。本研究の目的は、大量アルコール摂取を検出するための毛髪EtGの感受性を調べ、CDT、AST、ALT、GGTと比べることである。筆者らはまたアルコール摂取とバイオマーカーとの間の量的関係についても調べた。断酒クリニックに入院し、過去に3ヶ月以上の大量飲酒歴のある16名の被験者を集めた。彼らに飲酒パターンと関連疾患、薬剤や薬物の使用についてインタビューを行った。血清を集め、%CDT、AST、ALT、GGTについて分析し、毛髪サンプルを集めてEtGを分析した。過去3ヶ月の1日当たりの平均摂取量は純アルコール換算で206±136gであった。全患者が大量アルコール摂取の基準を満たしていた。大量アルコール摂取を検出する感受性は%CDTが64%、ASTが67%、ALTが67%、GGTが93%、EtGが94%であった。1日当たりの平均摂取量の量的数値と%CDT、AST、ALT、GGTと関係はなかった。本研究より、毛髪中のEtGとGGTが大量アルコール摂取を検出するのにもっとも感受性が高く、毛髪中のEtG濃度と1日当たりの平均アルコール摂取量との間に正の相関が見られることがわかった。広い範囲のアルコール摂取量で大規模にさらに調べていく必要がある。</p>	